

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームはまなす石狩(1階)	評価実施年月日	平成22年2月8日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「利用者が求める充実した生活と健全な運営を実現するため、家族、地域住民、関係機関などからの要望、助言を聞く」という内容で取り組んでいる</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>個人個人が念頭に置き活動するよう努めている</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>重要事項説明書にて家族に説明を行っている。又、施設内に掲示し来客にも認識してもらっている</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>町内会の新年会、清掃作業や除雪ボランティアなどに参加し日常的に交流している</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>市の夏まつり、福祉まつり、町内会のお祭り他地域交流を行っている</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>認知症サポーター活動を通じて、認知症を理解していただく支援をしている 会報で認知症とはどういうものかを、地域に知ってもらうようにしている</p>		<p>今後も出来るだけ活動の場を広げていきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	十分理解した上でできる範囲で活用している		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	つど、貴重な意見をいただき意見交換の場、また日頃気になっている事などを推進委員とともに議論しながら日々の業務に活かしている		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市内の他グループホーム事業所との連携を図る意味で石狩市グループホーム連絡会を年に何回か開催しており、市職員にも参加していただき連携、交流、情報交換を図っている		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業や成年後見制度については施設内に掲示しており、ケア会議、職員会議等でふれている。また実際に成年後見制度を利用している入居者様がいらっしや、後見人との連携も図っている		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待に関しては、市地域包括支援センターとの連携を通して常に注意を図っている 石狩市グループホーム連絡会でも同センター職員からの注意があり十分に留意している		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約前にあらかじめヒヤリングを行い、十分な説明と同意を得ている		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	おやつの時、お茶の時などゆっくりお話を聞ける時間などに、個々の入居者から日頃の不安や思いを聞き出し、カンファレンスなどで職員に周知している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>主に面会時など日常生活の様子、健康面についての説明を行っている。緊急を要する場合、受診結果、往診結果について都度、電話連絡を行っている</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時など家族に積極的に声かけを行い、意見・要望を聞いている。運営推進会議などでも意見を聞く機会を設け事業所運営に活かしている</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員会議等で、日頃の不満点や意見を話し合い、問題解決につとめている</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>入居者の状況により出勤時間を変更したり、あるいは人数を多くしたり常に柔軟な対応をしている</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>不安になる気持ちを最小限におさえるために早めにその旨を伝えたり、場合によっては離職、異動をしばらく伏せるなどの配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日本認知症高齢者GH協会開催のスタッフ研修会に全員参加している。センター方式の勉強会も参加してもらっている		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	認知症サポーター活動や石狩市GH連絡会などの活動を通じて、あるいは他事業所の勉強会、イベントに参加させてもらったりと連携をはかっている		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ストレスがたまったら懇親会をもうけている		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	資格取得への支援や時間・勤務日の配慮などしている。また自己学習用の資料なども配布している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	時間がゆっくり取れる際にはさりげなく話を聞いて希望や不安をくみ取っている		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居初期時は家族との連携をより多く取り、面会数の増減を助言したり生活の様子を伝えるなどの対応、同時に話を多く聞いている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	在宅生活継続の可能性をさぐり、必要であれば他の在宅サービスやインフォーマルサービスの利用を提案するなど対応している		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	徐々に慣れてもらえるよう、不安を感じさせないように話しかけを多くするなど配慮している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	昔話、料理、好きなこと、その人の過ごしてきた地域などの話題を通じて、職員や他入居者を含め共有できるような環境作りに心がける		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時、家族参加型の行事で普段見せない、見られない、あるいは忘れていたお互いの姿などを再発見できるよう支援を行っている		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の世界をまず理解した上で、職員間で共有しお互いが自宅に居る以上に豊かな表情が出せるよう努力している		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔なじみの友人、知人からの手紙や電話などのやり取りが気軽にできるよう支援している		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	生活を共にする仲間としての意識合えるよう、生活リハビリを一緒に行うなど支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	在宅に戻った際の介護相談や認知症への理解など、家族に協力したりして関係を継続している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや意向に配慮した個別ケアを実践しており、意向が伺えない方はその人らしさを第一にケアの方向性を検討している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個々の生活歴を把握し、その人らしさや持っている力を発揮できるよう支援を行っている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎朝のバイタルチェック、その日の気分や状態、体調を考慮し日課の調整を行っている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	まず、本人が何を求めているかを前提に職員間はもちろん、家族とも情報を共有し介護計画作成に取り組んでいる		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケア会議を定期的に行い、家族からも意見を聞きながら作成に当たっている。見直しの以前に変化があった時はケア計画の見直しを行っている	○	なかなか家族から聞き出せない事もあるので、もっと積極的に意見を引き出していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の情報の記録を活用し、またカンファレンスなどでもそれを共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設の2階、サンルームを利用するなど行っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域文化センターでの催しものに参加したり、町内会行事に参加するなど行っている		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他事業所主催のイベントに参加させてもらうなど実施している		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議などで、地域の方への助言、説明などを一緒に行っている		
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療機関職員に電話や、訪問し相談したりと行っている		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけの病院が定期的な往診時には気軽に相談に乗ってくれる。それ以外でも必要時には電話にて24時間対応していただいている		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を配置の上、24時間気軽に相談を行っている		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	常に連絡体制は整えており、必要な情報を共有できる連携を図っている		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に終末期に係る体制の説明を行い、必要時には主治医と家族との面談を行い今後の対応方針を検討している 終末ケア(看取り)もかかりつけ医の協力でおこなっている		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	その人の今後のことを十分に検討した上で、方針を策定し情報を共有できるように取り組んで実行している		
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	環境変化へのダメージを最小限におさえるよう家族、職員とも努力している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員には雇用契約時に守秘義務契約書を。入居者には、入居契約時に家族を含めて個人情報保護法に基づくプライバシー保護について説明し、その確約書を必ず		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日課ごとに必ず説明と同意を求めて、各支援を行っている		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人のペースや生活リズムを第一にケアを行っている		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	鬚そりや身だしなみには十分留意している。 理容・美容については来設してもらって本人の希望を聞いてもらって行っている		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	役割として、食事の準備、後片付け、食器拭き、収納をお願いしており、その人の日課として定着している		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	その人が望む嗜好品を把握し、日常的に楽しめるよう支援している		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	その人らしく排泄への支援を行っている。また、羞恥心にも十分に配慮を行っている		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間や日にちをずらして対応するなど、体調や希望に配慮し入浴支援をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	リズムよく生活ができるよう、生活習慣や体調に応じて対応している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	特技、生活歴、仕事、趣味、嗜好を配慮しその人らしい生活の支援を行っている		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理能力に合わせて、金額を配慮して財布を手持ちにもらうなど工夫して取り組んでいる		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望に応じて買い物や散歩など、積極的に外出に取り組んでいる 季節感のある行事を行っている		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望に応じてドライブ、外食、家族との外出・外泊の機会を設けている 年1回、一泊二日の旅行を家族と楽しんでもらっている		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	コードレス電話を利用し、家族や知人などへの連絡を取れる体制を整えている		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	サンルームなどを自由に利用していただき、リラックスしながら過ごしてもらえるよう支援している		
(4) 安心と安全を支える支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない介護に常に取り組むよう職員間で話題にしている 身体拘束廃止の研修会への参加も実施している		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	防犯上の理由で夜間を施錠するが、日中は常時オープンで施錠せずに過ごしている		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	勤務者同士連携を図りながら、常にホールに職員が配置されるよう配慮して日々のケアを行っている		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険物に関しては入居者にわからない扉内に保管する配慮をしている 定められた場所に保管するように徹底している		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故が発生した場合は、事故報告書に記載し情報共有できるようにしている 重大な事故、怪我に関しては石狩市にも事故報告書を提出している		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故発生対応マニュアルを準備している	○	不測の事態にスムーズに対応できるよう、定期的に訓練する機会を設けていきたい
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	毎年定期的に避難訓練を行っている 町内会、民生委員の方にも参加してもらいました		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている。	予測可能な危険な問題などには予め説明と同意を行っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックのほか、早期の病院受診なども含めて実施している		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々に服薬管理し、効能・副作用・禁忌などを記載し情報共有を行っている		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄チェックリストにて排泄状況確認ができるようにしている 水分、食物繊維摂取に気くばし、歩行運動に声かけし参加してもらっている		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々に食後の口腔ケアに取り組み、歯科受診も実施している		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食、食事摂取量を把握している他、正しい食事姿勢の体幹支持に配慮している。また気分良く食事ができるような環境作りを行っている。水分量の摂取も把握している		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し、インフルエンザ、食中毒などの流行期には入居者や職員にはもちろん、家族にも注意をうながす研修会に参加している(市・道)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、台所、調理器具、必要などころには塩素消毒を行い、冷蔵庫の整理、清掃を行っている。食材は使う分だけ1日おきに買い出ししたり発注し安全な食材に配慮している。また、できるだけ国産のものを使用している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前にはタンブラーに四季の花を植えて来所者の目を楽しませられるよう努力している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日掃除をし清潔感を大切にしている 居間には常に花を飾り、居心地に配慮している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファーや椅子、テーブルを多く配置し各々、好きなところで過ごせるよう配慮している サンルームを自由に利用しやすいように配慮している		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス、食器など使い慣れた物を持参してもらい今までの生活環境をなるべく変えないように配慮している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空調や換気をこまめに行っているほか、ルームファン、温度・湿度計を設置している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>施設内はほとんどがバリアフリーで、生活範囲内の箇所には全て手すりを設置している</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>何がわからないのかを探りながら、WCや部屋にさりげなく目印を付けたりして利用者の状況にあわせて対応している</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏は施設前に、椅子を設置し常に日光浴を楽しめるように配慮している</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>① <u>ほぼ全ての利用者</u></p> <p>② 利用者の2/3くらい</p> <p>③ 利用者の1/3くらい</p> <p>④ ほとんど掴んでいない</p>	毎日努力している
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>① <u>毎日ある</u></p> <p>② 数日に1回程度ある</p> <p>③ たまにある</p> <p>④ ほとんどない</p>	食事、おやつ、お茶の時間、洗たく物たたみ時など
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>① <u>ほぼ全ての利用者</u></p> <p>② 利用者の2/3くらい</p> <p>③ 利用者の1/3くらい</p> <p>④ ほとんどいない</p>	のんびりと個人個人で活動を楽しんでいる
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>① <u>ほぼ全ての利用者</u></p> <p>② 利用者の2/3くらい</p> <p>③ 利用者の1/3くらい</p> <p>④ ほとんどいない</p>	日々の生活の中で笑いがたえない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>① <u>ほぼ全ての利用者</u></p> <p>② 利用者の2/3くらい</p> <p>③ 利用者の1/3くらい</p> <p>④ ほとんどいない</p>	季節に応じた外出、レク、ドライブ (イチゴ狩り、ぶどう狩り、サクランボ狩り、お花見、一泊旅行など毎年行っている)
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>① <u>ほぼ全ての利用者</u></p> <p>② 利用者の2/3くらい</p> <p>③ 利用者の1/3くらい</p> <p>④ ほとんどいない</p>	看護師を配置し、往診、受診を必要に応じて対応している
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>① <u>ほぼ全ての利用者</u></p> <p>② 利用者の2/3くらい</p> <p>③ 利用者の1/3くらい</p> <p>④ ほとんどいない</p>	そう、見受けられる
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>① <u>ほぼ全ての家族</u></p> <p>② 家族の2/3くらい</p> <p>③ 家族の1/3くらい</p> <p>④ ほとんどできていない</p>	面会時、電話などでコミュニケーションを図っている
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>① ほぼ毎日のように</p> <p>② 数日に1回程度</p> <p>③ <u>たまに</u></p> <p>④ ほとんどない</p>	面会者を除き、以前よりは増えている



V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>① <u>大いに増えている</u></p> <p>② 少しずつ増えている</p> <p>③ あまり増えていない</p> <p>④ 全くいない</p>	行事等でもたくさんの協力をしてもらっている
98	職員は、生き生きと働いている	<p>① <u>ほぼ全ての職員が</u></p> <p>② 職員の2/3くらいが</p> <p>③ 職員の1/3くらいが</p> <p>④ ほとんどいない</p>	個人個人が個性を持って
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>① <u>ほぼ全ての利用者が</u></p> <p>② 利用者の2/3くらいが</p> <p>③ 利用者の1/3くらいが</p> <p>④ ほとんどいない</p>	そう、見受けられる
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>① <u>ほぼ全ての家族等が</u></p> <p>② 家族等の2/3くらいが</p> <p>③ 家族等の1/3くらいが</p> <p>④ ほとんどいない</p>	そう、見受けられるが遠慮されている部分も多い

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

毎年家族と入居者様が、一泊旅行に出かけているこの行事を1年でも長く続けていけるように支援することと、季節ごとの行事計画と実施